

令和7年度 城北小学校 学校評価

1 令和7年度の取組

みとめ合う子 ○「主体的に学習に取り組む態度」の育成を意識した単元構想と授業 ○ 付けたい「資質、能力」を明確にした学校行事等の特別活動 ○ 協働（学び合い）を意識的に取り入れた授業 ○「応援カード」の取組の充実	みがき合う子
--	--------

2 評価比較 （回答数：児童 376/419 教師 20/24 保護者・地域 322/429）

項目内容 「城北小の子どもたちは～」2～14 OR7年度からの項目	「そう思う・まあそう思う」%		
	児童	教師	保護者 地域
1 子供たちのよいところ、頑張っているところを見つけて、伝えることができる。	/	100	92
2 友達のよいところ、頑張っているところを見つけることができる。	84.2	/	/
3 自分のよいところ、頑張っているところを見つけることができる。	66.4	84.3↑	89
4 友達を励ましたり、友達に感謝を伝えたりすることができる。	87.5	94.7↑	83
5 友達や先生の話最後まで聞くことができる。	88.3↑	52.6	82
6 困っている友達を見かけたら、声をかけたり、助けたりすることができる。	82.1	94.7	87
7 相手の気持ちを考えて行動することができる。	75.3	89.4↑	79
8 授業中、めあてを意識して、運動や学習に取り組んでいる。	82.7↑	94.7	83
⑨最後まで粘り強く学習や課題に取り組むことができる。	76.8	89.5	91
⑩学習のめあてや自分の目標を振り返り、次の授業や生活に生かしている。	70.8	89.4	77
⑪自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりする授業に取り組んでいる。（そうした場面を設定した授業を行っている。）	82	78.9	85
⑫授業の内容は分かりやすい。「主体的に学習に取り組む態度」の育成を意識した単元構想とその授業を行っている。（指導方法を工夫して、子供たちが楽しく学び合いながら学習できるような授業をしようと努めている。）	84.5	94.8	88
⑬行事や委員会などの活動の時に、友達とアイデアを出し合ったり、自分から取り組んだりしている。行事や委員会活動において、付けたい「資質・能力」を明確にし、子供たち主導で活動できるように実践できた。	79.6	89.5	86
⑭おうえんカードを書くことで、いろいろな友達のことをよりたくさん知ることができた。おうえんカードを充実させる取り組みを行うことができた。	73.1	79	/

15「いじめは決して許さない」という姿勢で子供たちの指導を行っている。	83.2	100	83
16 職員（先生）は子供や保護者の話をよく聞こうと努めている。	89	100	90
17 保護者、地域の人たちの協力を得て、教育活動の充実に努めている、または協力してくれている。	90	100	90

3 「いじめ防止基本方針」の推進についてのアンケート結果（職員対象）回答数 23/25

	調査項目	できている、どちらかといえばできているの割合
1	いじめの定義（「一定の人間関係」「心理的又は物理的な影響を与える行為」「心身の苦痛」）を正しく理解していますか。	100%
2	「学校いじめ防止基本方針」の計画に則った未然防止の取組（いじめの防止等に関する取組）を行っていますか。	100%
3	いじめの未然防止に向けて、自分の役割を自覚して行動することができていますか。	100%
4	自校のアンケートや「はままついじめアンケート」の結果をいじめの発見に有効活用していますか。	95.7%
5	子供との関わり・観察や個人面談をいじめの発見につなげていますか。	100%
6	いじめと疑われる行為を発見した場合、その場でその行為を止めることができますか。	100%
7	子供や保護者の気持ちに十分寄り添い、傾聴しながらじっくり話を聴いていますか。	100%
8	事実（いつ、どこで、誰が、何を、どのように、なぜ『5W1H』）を聴き取り、その事実のみ（主観は入れない）を記録に残していますか。	95.6%
9	「校内いじめ対策委員会」でいじめの認知をし、組織的な対応ができていますか。	100%
10	いじめを受けた子供、いじめを行った子供の保護者に、いじめの事実関係や対応方針・経過をできるだけ早く、丁寧に説明していますか。	95.7%
11	いじめの解消に向けて、いじめを受けた子供、いじめを行った子供の気持ちを継続的に確認し、見守っていますか。	100%

4 評価からの分析・考察

- ・項目1～2、6、15～17については、昨年とほぼ結果が変わっていなかった。友達のよいところを見つけたり、伝えたりすることは、子供たちも職員もできていると認識している。
- ・項目3の「自分のよいところを見つけること」の評価は昨年に引き続き子供たちは低い割合である。しかし、それを見ている職員の割合は昨年度に比べ10%以上高くなっている。また項目7より、子供たち自身はあまり認識していないが、友達への思いやりが見られる場面が多くなったと職員は感じている。今年度の重点的な取り組みの「おうえんカード」を利用したり、学び合いを取り入れた授業を行ったりすることで、子供たち同士の関わり合いが増えたことも要因ではないかと考える。今後もよい取り組みとして続けていきたい。
- ・「おうえんカード」については、項目14にあるように、7割強の児童は友達のことをたくさん知ることのできるものであると考えていることが分かった。半面、3割近くの児童は、このカードの他にも方法はあっているのではないかと考えられる。次年度、この活動を継続し、他にも多様性・包摂性を育てる方法をいろいろ試していきたい。
- ・めあてを意識して学習に取り組む児童の割合が少し増えた。主体的に学習に取り組めるように工夫した授業を行えるように研修を積み、実践している成果が少しずつ出てきていると思われる。
- ・いじめに対する指導については、「許さない」姿勢で教員が対応している様子が伝わっていると数字からは考えられるが、教員と児童では意識に差が少しあるので、児童のいろいろな気持ちに沿うようにしていきたい。

5 学校運営協議会による学校関係評価

- ・生活に生かせないと学びが生きたとはいえない。主体的にというのはなかなか難しいことではあるが、自分で考える力を身に付けてほしい。
- ・主体的にできる子だけではなく、できない子たちへの手立ても引き続きお願いしたい。
- ・学校に行きたい気持ちを大事にしてほしい。
- ・「主体的」な取り組みをする意識が芽生えている。自分で考えていくことを大切にしていけるとよい。このまま続けていってもらいたい。教員も主体的に動いていくことを続けてほしい。
- ・職員室の空気感・雰囲気が良い。教員が一生懸命に取り組む姿が子供や保護者に伝わっている。できない子、外れてしまう子へどのように手を差し伸べていくかが気になる。
- ・いじめはきつとなくならない。いじめに対して対応出来ることが大事。
- ・それぞれの個性をみて、どのように集団を育てていくか。いじめの芽に速く気づき、良いアドバイスをして人間関係を構築させていけば、子供たちは乗り越えていける。
- ・子供たちが満足し、自信がもてるような授業をしているので、柔軟な許容体制が出来てきた。いじめの芽がないわけではないが、大事には至らず、良い方向に昇華できている。そばにいる先生の励まし言葉が上手。そうして、乗り越えさせている。

6 今後の改善方策

- ・子供たちの多様性・包摂性を育てる手立ての1つとして取り組んできた「応援カード」を次年度も続けていきたい。ただ、次年度は、それ以外の方法も考えながら引き続き、多様性・包摂性を育てていきたい。
- ・子供たちが主体的に学習や活動に取り組むことを意識して、行事や授業を行ってきた。少しずつ成果が出ていると感じるので、次年度も続けていきたい。
- ・探究的な学習としての「総合的な学習の時間」をより充実させるために、全職員で内容を見直した。今年度の学習を踏まえ、それぞれの学年で力を付け、積み上げていけるように指導していきたい。そのためにも、学校だけではなく地域や市などの人材や教材をいろいろと活用しながら、学習を深めていきたい。
- ・子供たちと大人とでは受け止め方や考えが異なることを前提に、学習や生活の場面で、子供たちと課題や考え、思いの共有をはかりながら、活動を進めてく。また、子供たち同士の協働的な学びを意識した授業も引き続き実践し、充実させていきたいと考える。
- ・子供たちが安心して活動に取り組めるように、「いじめ防止基本方針」は全職員で共有し、日頃から子供たちの話に耳を傾け、これからも「いじめは決して許されない」という姿勢で対応していく。
- ・いじめ対策委員会、生徒指導委員会では、事例検討研修を行ったり、情報を共有したりして、普段からいじめ防止に役立てていく。いろいろなケースには複数で、全体で対応していく姿勢は継続する。